

— 東日本大震災 — 仙台市議会の活動記録



仙台市議会

編集にあたって

東日本大震災から1年10カ月が経過し、この間、発災直後から今日まで、仙台市議会の各議員は、それぞれの立場で地域において救援活動や復旧・復興に全力で取り組んでまいりました。

同時に、本市議会は、被災地の議会として、早期の復旧・復興に向け、国や関係機関に対し一体となって要望活動を展開してまいりました。

本誌は、東日本大震災に対する仙台市議会としての対応や役割を後世に伝えるとともに、大規模災害時における議会のあり方を考察する上で参考にさせていただくために、大震災の概要や被害の状況、復旧・復興のための議会の活動について、発災日（平成23年3月11日）から市議会議員改選後1年（平成24年8月）までを、時系列に記録したものです。

目 次

「発刊に寄せて」	1
「3.11. 東日本大震災を振り返って」	3
第1章 東日本大震災の概要	5
第2章 復旧・復興に向けた動き	11
第3章 仙台市議会議員の選挙期日の延期	51
第4章 仙台市議会としての広報活動	53
第5章 議会事務局での対応	55
第6章 他都市からの支援	59
第7章 他都市からの視察対応	63

資料編

1 決議・意見書	69
2 要望書・要請書	77
3 各種会議の設置要綱等	97

発刊に寄せて

仙台市議会議員 佐藤 正 昭

東日本大震災は、東北地方に未曾有の被害をもたらしました。犠牲となられた方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

このたびの震災に際しましては、全国の皆様から、被災地への人的支援をはじめ、物資の提供、義援金など、多大なるご支援を賜りました。また、国内はもとより、海外からも、数多くの心温まる励ましのメッセージをいただきました。

地震発生直後の混乱を極める中、こうした皆様からのご支援は大変心強く、困難を乗り越えて生き抜こうとする人々に勇気と希望を与えていただきました。あらためて人と人との“絆”を強く実感したところであり、今日までの皆様のご支援に、厚く御礼を申し上げる次第でございます。

あの日から1年10カ月が経過し、仙台市におきましては、ふるさとの再生に向けた懸命な取り組みにより、徐々にではありますが、復興の道を歩みはじめております。

こうした中ではありますが、また、いつ同じような災害が発生するか、だれにも分かりません。その時に備え、仙台市議会が震災時どのように行動したか、また、復旧に向け国や関係機関に対して行った活動など、その記録を作成いたしました。

仙台市議会は、この“大震災”を決して忘れることなく、この国難とも言うべき苦難を必ずや乗り越えて、一日も早く復興を成し遂げ、全ての住民が心穏やかな生活を取り戻すことができるよう、そして、これまでも増して魅力ある都市を再建し、全国の皆様方に元気な姿をご覧いただけるよう、今後とも、全力で取り組んでまいり所存でございます。

おわりに、本書が議会の活動を記録として後世に伝えるとともに、今後の皆様の参考となれば幸いです。

3.11. 東日本大震災を振り返って

前仙台市議会議員 野田 護
仙台市議会議員

震災から1年10カ月が過ぎ、集団移転や復興公営住宅の整備、農地の復旧再生など、復興も加速し、仙台の街は元の姿を取り戻しつつあります。

今、市議会として当時のことを記録しておくことで、後世に多くの教訓を残し、災害時に役立ててもらえることを期待します。

平成23年3月11日午後2時46分。予算等審査特別委員会の真只中であって、笠原哲委員長が休憩の言葉を発した直後だったと記憶しています。少し揺れがおさまったときに、議員全員が議事堂から取りあえず外の駐車場に避難。余震の激しい揺れが続く中、議長として、待たなしの状況で、今後取るべき対応を考えていました。

震災直後を振り返ってみると、底冷えのする議会棟に泊り込み、常に「今、何ができるか。何が求められているか。」を自分に問い続けながら、無我夢中で指示をしていたと思います。

地震当日、帰宅が困難になり避難してこられた大勢の方々を見て、万一の庁舎の耐震性に不安もありましたが、寒さをしのぐことはできると判断し、議会棟を一時的に市民に開放することを指示しました。余震のたびに気がかりだったことを覚えています。

また、時間があれば避難所を回り、皆さんの不安な気持ちを受けとめてきました。津波被害の地区をこの目にしたときは、言葉が出ませんでした。政治家として、被災地の議会の長として、いま何をなすべきかを、あらためて強烈に突きつけられる体験でした。

それは、市民の命を繋ぐため、安全を確保するため、衣・食・住を確保することです。

日々変わっていく「求められていること」への迅速で柔軟な対応。その実現に向けて、多方面から救援や応援を求めること。この非常時では、今までの手法や考えでは到底実現できないことが数多く出てきます。

仙台市議会として、また、各市との連絡もままならない中ではありましたが、宮城県市議会議長会として国への要望を緊急で取りまとめ、各省庁や政党に対して要望活動を続けました。

私自身も、来仙された財務副大臣と直接お会いして被災地の実情を訴え、国の支援を強く求めたのをはじめ、あらゆるチャンネルを使い、物資や財政、人員面での支援を要請してきました。

2012年は復興元年、仙台市は、被災者の一日も早い日常生活の実現と都市基盤の整備、まちづくりの早急な実現に向けて、邁進しています。

しかしながら、津波や深刻な宅地被害など大きな被害を受けた地域は、今も震災の傷跡が大きく残っております。被災された方々の一日も早い生活の復興を願いつつ、私といたしましても、全力で取り組んでまいります。

